

神奈川県作業療法士会ニュース159号 目次

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 巻頭言 | 9 求人広告 |
| 2 こんな人に会ってきた | 10 各部からのお知らせ |
| 4 OTのためのIT講座（第17回） | 11 講習会案内 |
| 6 地域リハ部のページ | 12 青年海外協力隊体験記（第12回） |
| 8 第4回 理事会抄録 | |

巻頭言

「第14回 神奈川県作業療法学会 機器展示及びランチョンセミナーについて」

機器展示委員長 小室容子（鶴巻温泉病院）



平成25年巳年がスタートしました。皆様、新年の幕開けをどのようにお過ごしになりましたか？

そして今年は、2年に1回の開催となる「第14回 神奈川県作業療法学会」が平成25年4月21（日）に小田原市で開催されます。会場は国際医療福祉大学・小田原キャンパスです。学会準備委員会のメンバー達は、いよいよ3ヶ月後に学会当日を迎えるところまで来たという期待感でいっぱいです。しかし同時にどのくらいの人数の方々が学会に足を運んでくれるのだろうか、様々なキャリアの先生方や学生の皆さんが学会に参加して我々のメッセージを受け取ってくれるのだろうか…など不安な思いが募っているのも事実です。

平成23年10月17日に学会準備委員会が発足してから、約1年間学会テーマである「つなげよう過去から未来へー作業療法の挑戦ー」を掲げて学会プログラムや構成、そして機器展示について検討して参りました。平成24年7月の神奈川県作業療法士会ニュースにて菅原学会長が投稿されたように、日本のリハビリテーションにおける神奈川県作業療法士会の位置づけを認識すること、そして各分野で歴史を作ってこられた先人達の経験や知恵を若い世代の作業療法士が受け継いでいくことの必要性を感じて

います。そして本学会がその継承の架け橋となるよう学会準備委員会のメンバーは一丸となって取り組んで参ります。

さて本学会の機器展示は、小田原市にゆかりのある企業を中心に顔の見える連携を目指しています。また患者様や利用者様のより良い生活をサポートする専門職として、作業療法士は自助具や福祉用具の知識・最新情報を把握しておくことが必要であり、その際に正しい使い方や商品の特性を知っておくことはもっとも重要です。本学会の機器展示では、「使ってみる、体験してみる、感じてみる」ことを重視し、可能な限り体験型の展示を企画していきます。

またランチョンセミナーでは、領域や経験年数の枠を超えて作業療法士の先生方と、「自助具」の有効性を考える場を共有したいと思います。そして自助具の作製のポイントや地域生活を支える自助具の今後の在り方について皆さんと情報共有していきたいと考えています。

古き良き時代を継承しつつ、新たな作業療法の可能性に向けて挑戦していくために、より多くの方々と思いを共有する場になることを願っています。皆様の学会へのご来場を心よりお待ちしております。

こんな人に 会ってきた



株式会社 青海社

『臨床 作業療法』編集室



松岡 薫さん

今号の「こんな人に会ってきた」は、隔月刊誌『臨床 作業療法』を出版している、(株)青海社の松岡薫さんのもとに取材に行ってきました！

筆者は去年、知人の作業療法士の紹介で、『臨床 作業療法』のリレーコラムを執筆する機会を得ました。その時にお世話になったのが、編集室の松岡さん。コラムの編集・校正作業などのやりとりを通して、一般には、まだまだ知名度が低い作業療法の分野に、出版社としてどのようなスタンスで関わっておられるのか興味が湧き、今回は青海社さんのご厚意で、この取材へと至りました。

Q. まずはじめに日々のお仕事の内容について教えてください。

私の仕事は、隔月刊誌『臨床 作業療法』や各種書籍の出版制作業務です。具体的には、執筆される先生方への依頼や事務連絡、校正・編集作業や印刷所とのやりとりなどの業務を、主に担当しています。その他、日本作業療法学会をはじめ、作業療法に関係する学会・研究会の取材をして、見聞を広めています。

Q. 年間でどのくらいの人数の作業療法士と関わるのですか？

そうですね、雑誌でお世話になる先生は、毎号40名程です。そのうちの半分くらいが連載の執筆者の先生方ですので、年間6冊発行する中で140名程の先生方とやりとりしています。取材では、実際にお話を伺い、記事として掲載させていただくこともあります。直接・間接的に作業療法士の方の専門とするところを聞かせていただいたり、いつも作業療法への熱い思いを感じ、興味深く仕事をさせていただいています。

Q. 初めて作業療法を知った時の事や、『臨床 作業療法』に携わるようになった経緯について教えてください。

初めて作業療法のことを知ったのは、高校1年生の時に、同級生が「将来は理学療法士か作業療法士になりたい」と話しているのを聞いた時です。私は文系でしたが、作業療法については、「理系のお仕事」「歩行訓練や機能訓練をする」というイメージでした。

私は「隣のトトロ」に出てくるような田舎で生まれ育ったのですが、東京の大学に進学し、そのまま東京で就職活動をしました。昔から本が好きで、将来は出版の仕事に就きたいと思っていて、就職活動の時にも、活字に接したいという気持ちは変わっていませんでした。青海社が出版しているのはリハビリテーションや緩和ケアの雑誌、書籍が中心です。障がい者やターミナルの方に気持ちを寄り添わせて、その人がその人らしく生きていくお手伝いをするという医療分野に関われるところが、初めに惹かれた点のひとつです。そして入社してからすぐ、『臨床 作業療法』に携わりました。

Q. 出版に携わる大変さやおもしろさはどういうところですか？

業務の大変さといわれると正直思いつかないのですが、『臨床 作業療法』は隔月刊誌で、かつ特集のテーマを刊行の1年前に決めるという雑誌の特性上、情報のスピードには気を遣っています。一方、専門誌の特性として、読者と執筆者の多くが同じ作業療法士というところはおもしろいですね。執筆していただいた方や本誌の読者の方に、学会の会場でお会いすることたびたびあり、距離がぐっと近づく気持ちになることがあります。

学会・研究会という集いの場もありますが、活字という手段を通して、作業療法士のコミュニティづくりにも貢献できればいいですね。病院や施設の作業療法部門に1冊備えられていることもありがたいですが、「読みたい」という個人に支えられ、大切にしていだける雑誌づくりも目標にしています。

Q. それでは今回の本題、作業療法について、どう感じられていますか。

実際に文献や作業療法士さんと接するようになって、高校生の頃の印象とは大きく変わってきました。ある尊敬する作業療法士さんとお話した時に、「出版と農業は似ているね」とおっしゃっていたことがあったんです。「目の前にいない誰かの笑顔を思いながら物を作る点が似ている」ということで、なるほどと思いました。私は、別の点で「作業療法と農業も似ている」と感じています。人にもよりますが、種を蒔き続けて、少し経ってからやっと芽が出、実を結ぶまでにさらに時間がかかることもあります。また、作業療法は目には見えないところが多く、一般の方の理解につなげるには、大変な点も多いかと思っています。

人にはそれぞれ生きる力を与える源があると感じています。千差万別のその“いのちの源”に寄り添って支援する作業療法は、息をするというだけでない「生きる」という意味を何よりも捉えているようで、共感と感動を覚えています。

Q. 最後に、これからの作業療法や作業療法士に期待することなどを教えて下さい。

現場の先生方は、日々ご自身の専門性を深めておられて素晴らしいなぁと感じています。スペシャリストとしての側面が大切な一方で、作業療法の目的は「人の営みを具体的に支援すること」という側面も大きいかと思います。そのため、若手の先生方は、所属先以外での実践や別分野のことに興味を持ったり、作業療法の歴史や対極を知るなどして知見を深め、幅を持たれる活動も大切なことなのかなという印象を持っています。もし、私自身が作業療法の支援を受ける立場になった時には、そんなジェネラリストの作業療法士さんに出会いたいと願っています。

『臨床 作業療法』では「編集部が見つけたキラリ発表」という、学会発表の内容をご紹介しますコーナーがあります。そこでいつの日か、学会の会場などでお会いして、所属されている病院や施設でのユニークな実践のご報告をお聞きしたり、お話できることを楽しみにしています。また、会場でお声掛けいただければ嬉しいです。

大変なことも多いと思いますが、神奈川県作業療法士さんに、「いつもそばにいてくれるような作業療法士さん」として輝いてほしいなと思っています。

おわりに

今年『臨床 作業療法』は創刊10年目になるそうです。取材終了後に、代表取締役の方と一緒に懇親会をさせていただいた席で、この雑誌や作業療法に対する熱い思いを、たくさん聞かせていただきました。作業療法の役割や、作業療法士の仕事を理解してくださっている心強いサポーターに巡り合えた喜びに浸る反面、作業療法への情熱に関しては、私たちもうかうか負けてられないと感じました。

今回の取材を通して、1人の作業療法士として、これからも心強いサポーターの協力を得て、これからも神奈川の作業療法を魅力的なものにしていこうと心に決めました。青海社の皆さま、ご支援、ご協力ありがとうございました。

青海社HP：<http://www1.tcn-catv.ne.jp/seikaisha/>

【文責：ニュース編集班本間】

OTのためのIT講座

第17回 ワードのファイルが開けない！



講師
石川 敢也さん



松本 情報セキュリティの話をしている間に、インターネットやPCに関する質問がいくつか届いています。



石川 はい。今回から、すぐに使える内容にしていきましょう。



松本 では、さっそく、重要性和緊急性で判断して、回答していきましょう！



石川 前にセキュリティの回にお話した、分類と格付けの考え方を応用して実践していますね。(笑)



松本 そうなんです。それで、今回選んだ質問は「マッキントッシュで作ったワードのファイルを送ってもらったけど開けなかった」というものです。



石川 なるほど。それはですね、主に「ファイル形式の違い」と「互換性の問題」が原因として考えられますね。もう少し具体的に教えてください。



松本 Macintosh版のWord2011で作ったファイルを、Windows版のWord2003で開こうとしたら、できなかったというトラブルなんですけどね。その場で簡単に解決できたらいいなという内容です。



石川 了解しました。3つの注意点をご紹介します。



1

互換性パックを使いましょう！

研修会などで環境が違う多くの人とファイルのやり取りをすることが多いOTの皆さんは、マイクロソフトが公式にサポートしている「Word/Excel/PowerPoint 用 Microsoft Office 互換機能パック」をダウンロードしてインストールしておくといいでしょう。これは、Wordのバージョンの違いによるトラブルを解消します。「Office 互換機能パック」で検索すればすぐに見つかります。タイトルの通り、Wordだけでなく、ExcelやPowerPointにも対応していますので、「開けない」という場面にあった人は、無料ですので、ぜひインストールしておきましょう。最新版のWordを使っている場合は必要ないはずですが。



2 別の方法でファイルを開きましょう！

以前の記事でもご紹介したGoogleのサービスが、「Googleドライブ」という名称になって、より便利になっています。ワープロ、表計算、プレゼンテーションの機能があって、それぞれWord、Excel、PowerPointに相当すると思ってください。Googleが提供しているインターネット上のサービスなので、ソフトをインストールする必要さえありません。MacintoshでもWindowsでもiPadのようなタブレット端末でもスマートフォンでも使えます。PowerPointが入っていない人には特にお勧めです。どれも無料です。



3 保存するときは「docx」ではなく「doc」で！

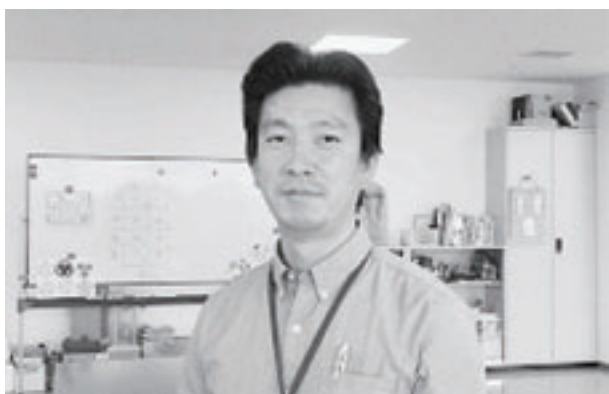
これは新しいWordで文章を作成して保存するときの注意点です。新しいWordでそのまま文章を保存すると「docx」という形式で保存されます。これは、古いバージョンのWordでは開けない形式になります。他の人にファイルを渡す可能性がある場合には念のために、「名前を付けて保存」の横にある「▼」をクリックして、「Word 97-2003 文書」という形式を選ぶと親切だと思います。



地域リハビリテーション部

地域リハ推進班

シリーズ「認知症の作業療法」 ベテランOTへの インタビュー



金沢隆之 先生 プロフィール

社会人経験の後、OT養成校へ。卒業後、相模原市役所の介護予防推進課に配属となり、手探りで認知症予防に向き合う日々。現在7年目を迎えている。行政の作業療法士として介護予防最前線で奮闘中。



写真1 介護予防教室の様子

「認知症予防の作業療法」前編

相模原市役所 介護予防推進課
金沢隆之 先生

—金沢先生が認知症予防と関わるようになった経緯を、お聞かせください。

私が相模原市役所に入職した平成18年は、介護保険法が改正され、介護予防が重視される動きにありました。市役所に勤めることが決まった当初は、OTとして私がどのような仕事を担当するのか、はっきりとわかっていませんでした。出勤初日に上司から、「OTには認知症予防を担当して欲しい」と言われ、2か月後には認知症予防教室を開催することになっており、とても戸惑いました。その頃の私は、精神科の実習で認知症の方と関わった程度にしか、認知症についての知識や経験はありませんでした。市役所に入ってから、認知症について、一から勉強し直したようなものです。そして同時に頭の中は「予防って何？」といった状態でしたから、介護予防や認知症予防についても、一から勉強しました。

—現在のお仕事について教えてください。

自分たちで「脳を鍛える！脳活道場」

現在の業務の一つとして、認知症予防事業「脳を鍛える！脳活道場」の運営に携わっています。事業の名称は、今でこそ「覚えやすくいいね」などと言って頂けることもありますが、当初は大反対されました。しかし、高齢者の方々が、受け身で参加するのではなく、自分たちで何かをやっていくぞ、といった意味合いを込めたいと思い、保健師スタッフと相談して、「道場」と名付けました。

介護予防事業の対象は、二次予防事業対象者（65歳以上で、要介護・要支援になるおそれのある方）を中心に、定員に空きがある場合には一次予防事業対象者（元気な65歳以上の方）も含めています。1クール13回で、週1回2時間、定員は14名としています。担当するスタッフは、OT、保健師、健康づくり普及員、内容によって食生活改善推進委員の方にも参加して頂きます。進行役のOTは非常勤の方をお願いしており、私は主に事業の計画、関連団体との調整、講義の計画をしています。相模原市の各区で事業を展開し、年間8コース、約100名が脳活道場に参加しています。

—基本的な質問ですが、認知症予防として、どのようなことをするのでしょうか？

暮らしの中で介護予防

厚生労働省の介護予防マニュアル「認知機能低下予防マニュアル」に基づいて、事業の企画をしています。認知症になりにくいとされる生活習慣を学んだり、低下し易い認知機能（エピソード記憶、計画立案力、注意分割力）を鍛えるといった内容が中心です。参加者の皆さんが、その後の日常生活に取り入れられるような形で「予防活動」を提供することを、常に念頭に置いています。予防のために、新たに特別なことを始めるのは大変です。でも、認知症予防に関して言えば、普段していること、例えば「料理」ひとつをとっても、2つ以上のことを同時に行う注意分割機能を鍛えられるし、何を作ろうか？材料は？手順は？と考えることで、計画立案力も鍛えられます。次の日に、何を作ったかしら？味はどうだった？誰と一緒に？などと思い返してみることで、エピソード記憶を鍛えることにもなるでしょう。いつも通りの生活も、認知症予防の視点をもって取り組んでみることで予防活動になるのです。そのような介護予防のエッセンスを提供できればと思っています。

「これだったら、家でもできそう」と思って頂きたいのです。その他に、有酸素運動としてウォーキングを実施する際に、歩き方のフォームや速さのことばかりを考えるのではなく、周囲の景色を見たり、匂いを感じ取るなどの「五感を働かせる」ことを意識したプログラムを取り入れています。これは普段の暮らしで、すぐに活かされますよね。

→多職種で「脳活道場」を実施しているそうですが、OTの特性はどのような部分で活かされていますか？

共有できる場と集団の利用

実際には、参加者の中に、明らかな認知機能低下がみられる方はほとんどいません。しかし、漠然とした不安を常に抱えていたり、もの忘れなどで自分に自信を持てなくなっている方は数多くいます。OTとして私が大切にしたいことは、同じような不安や心配を抱えている方同士が関わる場面を通して、参加者の皆さんが、少しでも自信を高めることができるようにしたいと思っています。場面を作ることや集団の利用は、まさにOTが得意とするところですから、この点は最も大切にしています。

→事業を展開していく上で、困っていることや課題はどのようなことでしょうか？

意欲がなければ続けられない

二次予防事業対象者というのは、基本チェックリスト（※資料1参照）の回答によって判定されます。対象者になった方のうち、認知機能に関する質問3項目中1つ以上に該当した方が認知症予防の対象となります。この方々は、地域包括支援センター（※資料2参照）から紹介されて参加する、つまり自ら希望して参加していないため定着率が低く、途中でリタイアしてしまう方が多いのです。予防は、実施したところで、結果は目に見えづらいものです。ですから、本人の予防に対する意識や意欲が維持できなければ、継続は困難で、次からは来なくなってしまいます。このことは、市としても重要な課題としてとらえており、今後対応策が必要です。来年度からは、事業開始前の個人面接で、1人1人の生活状況や暮らしの中での困りごと、本人の気持ちについても詳しく話を伺いたいと考えています。その上で、介護予防事業へ参加するメリットや必要性についても、具体的に伝えていけたらと考えています。同時に、魅力的なプログラムであるということが重要だと思います。「参加したい」という意欲を引き出せるような、その方にとって大切な作業、魅力的な作業を取り入れた活動を展開していきたいです。

終わってからが、本当の介護予防

もう一つの課題は、終了後のフォローアップです。参加者の中には、終了後に参加者同士で自主グループを作り、継続して活動をする方々もいます。自主活動を定着していただくためには何かしらの仕掛けが必要なものですが、現状としては行えていません。そのため、実際に自主化して活動できているのは、まだ少数例です。自主グループ活動を続けている方々のフォローアップと同時に、今後は、参加時から「継続が大切」といった予防の基本を、より重視して伝えていきながら、そのための仕掛けを提供していきけるような方法を検討していきます。継続には「仲間」と「環境」が必要です。「仲間」は脳活道場で作っていただき、「環境」の充実については、利用しやすい施設や場所を紹介していきたいと思っています。

また、来年度の目標としては、是非とも脳活道場OB会を開催したいと思っています。情報交換の機会となったり、新たな仲間や活動が広がることを期待したいですね。（次号に続く）

文責：河村

※資料1

＜基本チェックリストとは＞

65歳以上の方全員に、介護予防チェックとして実施されている。介護の原因となりやすい生活機能低下の危険性がないかどうか、という視点で運動器、口腔機能、栄養、認知機能、うつ、閉じこもり等の全25項目について「はい」「いいえ」で記入する質問表。

＜認知機能に関する3項目（1つ以上該当する場合は、二次予防対象者）＞

- 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか
- 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか
- 今日が何月何日かわからない時がありますか

※資料2

＜地域包括支援センターとは＞

介護保険法で定められた、地域住民への総合相談支援、権利擁護、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関。保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士が置かれ、専門性を生かして相互連携しながら業務にあたっている。相模原市には22箇所の地域包括支援センターが設置されている。

表1 脳を鍛える！脳活道場プログラム

日程	内容
1日目	事前アセスメント（個別面接）
2日目	オリエンテーション 認知症と予防に関する講話と個人目標の設定
3日目	認知症予防の体験 目標の振り返り
4日目	運動プログラム① ＊健康体操 ＊ウォーキングの方法と楽しみ方 ＊ウォーキングコースの計画
5日目	運動プログラム② ＊健康体操 ＊ウォーキングの実践 ＊ウォーキングの振り返り
6日目	創作プログラム① ＊切り絵の体験（グループ毎で実施）
7日目	創作プログラム② ＊切り絵の制作と作品発表
8日目	料理プログラム① ＊グループにてテーマの検討及びメニューの選択
9日目	料理プログラム② ＊調理実習及び会食
10日目	自主プログラム① ＊自主プログラムの計画
11日目	自主プログラム② ＊自主プログラムの実施
12日目	まとめ ＊自主プログラムの振り返りと教室のまとめ
13日目	事後アセスメント（個別面接） 「免許皆伝の証」授与

理事会 報告

平成24年度 第4回 一般社団法人 神奈川県作業療法士会理事会 抄録

日時：平成24年11月8日（木）19：00～22：20

場所：神奈川県作業療法士会事務所

出席理事：渡邊、浅井、錠内、奥原、木村、小峰、作田、富山、中西、野々垣、原、福留、澤口

委任理事：鈴木、机、中西、三浦 出席監事：清宮、長谷川

その他：松本（広報部ニュース班）、酒井（広報部対外広報班）、沼田（福祉用具委員会）、名古屋・金山・中尾（事務局書記）

●事務局（澤口事務局長）

1）渉外関連

①川崎市介護認定審査会委員 増員依頼（現行1名→3名）

委員の任期：H25/4/1からH27/3/31 審査会の開催：原則として隔週開催⇒事務局にて互選し、麻生区 湯澤大輔（麻生リハビリ総合病院 現在多摩区の介護認定審査委員）、多摩区 名古屋和茂（横浜YMCA学院専門学校）、高津区 金子美鈴（関東労災病院）3名を推薦。

②神奈川県保健衛生表彰 受賞決定について

田中節子先生（横浜YMCA学院専門学校）が受賞される。

表彰式日時：11/14（水）14時～場所：神奈川県総合医療会館

2）後援名義使用依頼

・「第2回横浜市・南関東在宅医療推進フォーラム」横浜市在宅医療

推進フォーラム運営委員会より依頼⇒理事MLにて審議⇒承認

3）他団体などより研修会案内（周知依頼）

・日本浮腫療法協会 緩和ケアに浮腫療法を！

・社会福祉法人 南高愛隣会 福祉トップセミナーin雲仙2012

・かながわ住まい/まちづくり協会事務局 バリアフリーフォーラム講演会

4）OT協会関連

①OT協会表彰推薦について

該当者へ書類送達済み（該当者8名）。協会への書類提出締め切りは11/2⇒福祉部にて対応済み

②機関誌『日本作業療法士協会誌』10月号へ掲載記事の依頼あり⇒広報部小峰理事にて対応済み

③OT協会福祉用具相談支援システム運用事業 事業開始と委員委嘱について⇒福祉用具委員会にて対応済み

④都道府県OT連絡協議会 リーダー研修会（担当：新潟県士会）

日程：11/3・4 参加者：澤口事務局長・名古屋事務局次長・金山事務局次長 全体の出席者：45名（千葉・埼玉・東京・山梨・長野・新潟） 内容：＊宮崎県士会広報部講演：広報部の政略 ＊コーチング協会認定（福島県PT士会）講演：コーチングについて

⑤都道府県OT連絡協議会 ブロック編成に関する意見集約について⇒関東甲信越ブロックは計10士会（新潟・群馬・長野・山梨・埼玉・茨城・栃木・千葉・東京・神奈川）と他ブロックに比べ構成団体数が多く、ブロックとしての活動が行われにくい現状がある。そこで、ブロック活動をスムーズに行うことを念頭に、今後のブロック編成について各士会の意見集約を行いたい⇒締切：次回2月の支部長会議⇒事務局にて資料を作成し、理事MLにて意見を募る。

⑥WFOT2014独立採算プログラム委員会（委員長：岩瀬義昭）からの依頼⇒施設見学会や懇親会のボランティア募集を神奈川県士会会員より募りたい、可能であれば、県士会事務局のアドレスを窓口とし、県士会ニュースに記事を掲載しPRさせてほしいとのこと⇒web管理委員会にアカウント申請して頂き、独自のアドレスを提供する方向で調整。県士会としても協力していく。

5）その他

①県内高校生より事務局に施設見学の問い合わせあり

・広報部小峰理事に相談、広報部で対応することになった。例年数件の見学依頼がある。施設見学のニーズはあるのか、OT協会、PT士会、全国のOT士会、県内の養成校に施設見学の有無や仕組みについて問い合わせしていく。

②県士会会員対象の会員実態調査について

今年度中に実施予定。現在、アンケート項目を検討中。

6）検討事項

①県士会役員人事について

佐藤副会長が退任されることになった。定款第16条により、副会長を2名置くことと明記。定款第16条の2により副会長を理事の中から選任する。

→浅井理事を理事会にて副会長と選任⇒承認

②県士会役員選挙について

次年度は役員改選年度となる。役員選挙規約第2条に基づき、選挙管理委員会を事務局内におく。選挙管理委員会を立ち上げるにあたり、第3条で「理事会は、選挙管理委員を推薦する（5名）」とある。まず1名、木村達氏（鶴巻温泉病院）を選挙管理委員として推薦する。他4名は木村氏より提案予定。理事MLにて審議とし、推薦が承認されれば、計5名より互選にて選挙管理委員長を選出する⇒承認

●財務部（野々垣理事）

1）中間監査について

・10/20（土）に実施。監事より①会費納入率低下に関する点と②長期滞納者に対する方策の2点について意見があった。会員数には滞納者も含まれていることから、結果として実際の未収入金として会計を圧迫していると補足説明がされる。また、滞納者への督促状などで年間約20万円（一人あたり2,000円弱）の経費がかかっていること、会員数の増加に比べ、県士会員の純増数が100名前後になっているとの説明があった。⇒滞納者の会員資格の停止もしくは除名について今後検討していかざるを得なくなった。会員の規約についても検討する必要があり、OT協会本部の規約を参考に、財務・規約委員会・事務局で検討していく。

⇒収入見通しを考慮した年単位での調整が必要か。12月末で、予算執行率を出す。

⇒会員数については、OT協会と比較し分析、対応を検討する。

2）年会費の銀行口座引き落としについて

・9月末発行の県士会ニュースに銀行口座振替用紙などを同封。10月末で256名の届出あった。また、案内を県士会サイトに掲載依頼したが、このことに関して会員からも問い合わせあり。

⇒Q & Aも県士会サイトに掲載する。

●学術部（福留理事）

・平成23年度神奈川県作業療法士会研究助成課題 Webアンケートによる調査協力をお願い⇒県士会助成事業でもある⇒承認

●地域リハビリテーション部（木村理事）

・生活行為向上マネジメント研究事業（OT協会）への協力 OT協会において、今年度の老人保健健康増進等事業に生活行為向上マネジメント関連の研究事業が認められ、そのうち、「訪問介護との連携」に関するデータ収集の依頼が当会にあった。

⇒神奈川県士会会員より10名程度を募り対応する。現在、ヘルパーによる初回評価を実施中。11月より県士会会員による対象者宅への訪問を開始。

●福祉用具委員会（沼田委員）

1）国際福祉機器展への協力

・「ふくしの相談コーナー」へ9/26～9/28の間に相談員として計7名を派遣した。3日間で約30件の相談があった。パンフレットの記載がなかったり場所もわかりにくかったため改善を求める。

2）OT協会福祉用具相談支援システム運用準備進捗状況

・7月に相談員（福祉用具委員の田畑、沼田、川崎協同病院村越妙美氏）を選定し、9/29に田畑委員が事業説明会へ参加した。

10/4に相談員打ち合わせを行い、事業説明会報告を受けた。⇒今後、県士会会員へ事業周知。新規事業として展開していく。※紙面の都合で一部割愛・・・詳細は県士会Webへ（文責：澤口）

WFOT2014大会懇親会・施設見学ツアー ボランティア募集のお知らせ

独立採算特別プログラム委員会 委員長 岩瀬義昭

WFOT2014大会独立採算特別プログラム委員会は、神奈川県士会・東京都市会・埼玉県士会各会員の協力により懇親会や施設見学ツアー・日本の文化紹介等を計画しています。

大会の日程や企画等は、大会参加費で運営されますが、独立採算特別プログラムの運営は別に参加費を徴収して運営されます。また、海外からの参加者がお値打ちと感じられる参加費で、日本に来て日本の作業療法士たちに会えて良かったと思うことの出来る内容にするためには、運営に費やす予算は限られています。

また現在、神奈川県士会の役員や有志で「かながわ班」(現在のスタッフは澤口勇、神保武則、西尾香苗、小泉香織、田中秀宜(敬称略))を構成し、さまざまな案を話合っています。

そこで、神奈川県士会員の皆さんにボランティア募集のお願いです。

「かながわ班」では、以下のような人材を求めています。

- WFOT2014大会会場でこんな日本文化を海外の作業療法士に伝えたいという企画立案に参加したい方。
 - 懇親会会場と大会会場を結ぶルートで道案内したい方。
 - 懇親会会場で接待しながら、海外の作業療法士と談笑したい。
 - 英語は話せないけれど、懇親会会場で接待しながら、一度しか味わえない雰囲気にとりあえずしたい。
 - 海外の作業療法士に、自分が働いている職場を見せたい。
 - 施設見学ツアーに同行して、横浜の街や作業療法士が所属する施設を案内したい。
- 神奈川県士会員の皆さんの多くの方が応募されることを期待しています。

※現在ホームページに掲載されている独立採算特別プログラム委員会の企画

- 懇親会：2014年6月19日(木) 19:00～21:00
参加費：¥5,000(予定)
会場：大磯橋ホール(大会場から徒歩45分)
参加申し込み方法と参加募集期間：後日公示
- 施設見学ツアー(複数)：大会期間内の半日
1. 東京都内福祉用具関連企業
2. 神奈川県内施設
参加費：¥3,000
参加申し込み方法と参加募集期間：後日公示

求人

作業療法士オープニングスタッフ募集

平成26年5月、川崎市に初めて認知症疾患専門病院をオープン致します。認知症専門病院として介護や福祉と連携し、早期復帰を目指した全国に誇れる新しい病院と一緒に創っていきませんか。

施設概要 病床数300床(全認知症専門病床)
認知症デイ・ケア
募集人員 常勤 10名(オープニングスタッフ)
給与 当院規定により優遇致します。
昇給年1回 賞与年2回
勤務時間 8:30～17:30 土曜 8:30～12:30 ※予定
休日 日・祝・土(午後)、1週40時間以内による
病院指定休、年末年始等
応募方法 電話連絡の上、履歴書(写真貼付)、免許証(写)
を下記準備室まで郵送ください。
アクセス 東急田園都市線たまプラーザ駅、溝の口駅
小田急線柿生駅、新百合ヶ丘駅等からバス
バス停より徒歩1分
※田園都市線あざみの駅より職員送迎バス予定
担当者 開設準備室事務長 国井弘善
〒222-0011横浜市港北区菊名4-3-11
横浜メディカルグループ本部
電話 045(430)5445
FAX 045(401)2640
E-Mail kunii@ymg.gr.jp

医療法人花咲会 かわさき記念病院

建設地 神奈川県川崎市宮前区潮見台2441-1(地番)

求人

作業療法士募集

募集人数：2名(常勤)

募集資格：作業療法士免許取得者

病院内容：515床を持ち診療科を25科展開する横浜市最大級の民間総合病院です。急性期と慢性期の病棟を併設しております。

アットホームで温かい空間にぜひ。

アクセス：JR横浜線 十日市場駅

田園都市線 長津田駅

相鉄線 三ツ境駅

各駅よりバスで20分「若葉台中央」

詳細は当院ホームページにてご確認ください。

<http://www.ims.gr.jp/asahi-hp/>

まずは見学会で体感を。随時受け付け中。

一同楽しみにお待ちしております。

医療法人社団 明芳会
横浜旭中央総合病院

〒241-0801 横浜市旭区若葉台4-20-1

電話(直通) 045-921-6161

E-mail jinji@asahi-hp.jp

各部からの報告

地域リハビリテーション部

〇《研修会案内》

今年度計画していた研修会は終了いたしました。
参加いただいた会員の皆様には感謝申し上げます。

〇《訪問リハ実施施設の掲載》

既にご存じの方も多いと思いますが、県士会ウェブサイト「地域リハの“わ・輪・和”」というコンテンツを掲載しています。<http://kana-ot.jp/wpm/cbr/>

その中に“訪問作業療法実施施設”をみなさまの協力のもと掲載いたしております。

今年度は作業療法士の所属施設のみならず、理学療法士や言語聴覚士の所属施設も掲載するように適用範囲を拡大いたしました。

神奈川県民への有益な情報源ですので、未だ掲載していない事業所の方々には是非ともご協力をお願い申し上げます。

〇《日本作業療法士協会の研究事業協力》

日本作業療法士協会の研究事業「生活行為向上支援としての居宅療養管理指導事業のあり方検討事業—訪問介護との連携による家事自立支援事業」に神奈川県士会が協力しております。

概要は「訪問介護が実施するサービス内容を、我々OTがプランニングする」ことであり、神奈川県士会会員には訪問介護のサービス提供責任者と同行訪問し、対象者のプランニングを実施していただいております。

詳細は日本作業療法士協会の報告を参照いただければと思いますが、可能な範囲で県士会ニュースでも報告したいと思っております。

雑誌やTV番組でも「生活行為向上マネジメント」を取り扱うとのこと。会員諸氏には是非とも注目いただきたいと思っております。

(地域リハビリテーション部 木村)

教育部

〇連載！

県士会ウェブサイトから質問ができます！

「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」は、生涯教育制度関連の情報を毎号少しずつお伝えしています。

1. 生涯教育制度関連の研修会開催情報

*申し込み等詳細はこれまでの県士会ニュースチラシ、県士会ウェブサイトをご参照ください。

①現職者選択研修 *これからでも申し込み可能です！

- ・身体障害領域 2013年2月3日(日) ウイリング横浜
- ・老年期障害領域 2013年2月10日(日) ウイリング横浜

②現職者共通研修：

テーマ：「事例検討」・「事例報告」

2013年2月24日(日) ウイリング横浜

*「事例検討」に限りこれからでも申し込み可能です。

2. その他

OT協会の生涯教育制度が見直しされ、取り組みやすく改訂されます。「日本作業療法士協会誌」12月号の特集「生涯教育制度改定2013」をご確認下さい。

生涯教育制度に関して何でもご連絡ください。県士会ウェブサイトからも質問ができます。

教育部 奥原孝幸(昭和大学) 045-985-6500(代),
kyoiku@kana-ot.jp

ウェブサイト管理委員会

〇復興支援はブームじゃない！

<http://kana-ot.jp/2011-03-11/2012link.htm>

よこ太：もうすぐ2年が経つね…

ハマ子：3DSが販売になってから？

よこ太：違うよー、東日本大震災からだよ！

ハマ子：あら、真面目な話だったのか。原発に計画停電に、うちらも右往左往したね。

よこ太：うん、3月14日なんて出勤できなかったもん。

ハマ子：ニュースでしか知らないけど、被災地はまだまだまだだっただけだし。

よこ太：復興支援って言葉も、あんまり聞かなくなったね。

ハマ子：直接的な関わりがないとどうしてもね。

よこ太：仕事とか、自分の日常をキープしたまま、手伝えることってないのかな？

ハマ子：ん？知らないの？県士会サイトの「神奈川からできる復興支援リンク集」。

よこ太：え？カナガワデアゲルケッコシキ？

ハマ子：今回は真面目なんですよ！「復興支援リンク集」よ。復興支援についてネットで情報が得られるから便利よ。

よこ太：そんな便利なページがあったんだー！

ハマ子：「イベント情報」、「支援物資」、「通信販売」などカテゴリーに分かれてリンク先をまとめられています。できることから少しずつ！

(文責：ウェブサイト管理委員会 作田)

平成24年11月アクセスランキング

- 1位 作業療法Tips & PDF 23352件
- 2位 講習会・研修会 17626件
- 3位 必見！OTのすごい技・アイデア集 10682件
- 4位 求人情報掲載板 9498件
- 5位 再学習☆応援講座 3503件

平成24年11月 県士会ブログランキング

- 1位 ウェブ管的知恵袋 356件
- 2位 ALS支援ブログ@KAOT 237件
- 3位 KAOT:社会保障制度委員会 156件

更新件数：46件 訪問者延べ数：19186人

Kanaからの手紙発行回数：20回 登録者：167名

Twitter (ID:kaotwebkan)：フォロアー218名



研修会

トッパダウンスキル講習会

主催 湘南OT交流会
日時 H25年1月20日(日)9:30~16:30頃(受付9:10~)【面接1】
 H25年2月17日(日)9:30~16:30頃(受付9:10~)【面接2】
 H25年3月17日(日)9:30~16:30頃(受付9:10~)【興味関心1】
 H25年4月14日(日)9:30~16:30頃(受付9:10~)【興味関心2】
場所 茅ヶ崎市民文化会館4階大会議室
 ※茅ヶ崎駅北口徒歩7分です
内容 トッパダウンの実践には、多くの枠組みと多くの知識が必要ですが、それだけではなく作業療法士の眼も鍛える必要があります。
 湘南OT交流会では、実践知識をもとにプログラムを構成しました。
 学習は楽しくを基盤に、ビデオケースやライブケースをまるで見ながら解くかのように、ワイワイ楽しく相談しながらトッパダウンで解釈して行きます。
 徹底的なブレインストーミングで知識や発想力の獲得、そしてトッパダウンの眼を鍛えましょう！
 学生も参加可能なレベルに設定していますので、お気軽にご参加ください！
 全国の作業療法士が参加中です！南は福岡！北は秋田！今OTに求められている最良の知識です。先着順で受け付けておりますので、お早め！
対象 OTR、OTS
参加費 3000円
定員 48名
申込み方法 下記のページから専用フォームにてお申し込みください。
http://1st.geocities.jp/shounan_ot/poster.htm
申込み締切 開催日の7日前が締切りです。
生涯教育ポイント 1ポイント
問い合わせ 下記トップページからアクセス願います。
http://1st.geocities.jp/shounan_ot/index.htm



研修会

実践！認知症ケア研修会2013

主催 日本通所ケア研究会/福山認知症ケア研究会
日時 (大阪会場) 2013年2月16日(土)10:00~17:00
 (横浜会場) 2013年3月23日(土)10:00~17:00
場所 (大阪会場) ATCホール(大阪府大阪市住之江区)
 (横浜会場) ウィリング横浜(神奈川県横浜市港南区)
内容 認知症の方の尊厳を守るためのケアを様々な角度(理論・ケア技術・工夫・事例)から学んでいただきます！
【プログラム内容】 ご自由にお選びいただけます。
 ■発想と視点の転換によってケアを改善！
 ■認知症の知識+観察力+想像力でアプローチ！
 ■認知症の方を多角的にアセスメントする方法！
 ■認知症の方に有効なケアを行うためのイロハ！
【講師】
 佐藤良枝(曾我病院作業療法士/神奈川県作業療法士会)
 渡辺哲弘(介護ホッとステーション・クローバー 代表)
 井戸和宏(IDOさがみ福祉相談事務所 代表)
 妹尾弘幸(株式会社QOLサービス 代表取締役)
対象 認知症ケアに携わる方、興味がある方ならどなたでも
参加費 10,000円(税・資料代込)
定員 100~150名
申込み方法 下記ホームページより詳細をご確認いただき、お申し込みください。
<http://www.tsuusho.com/ninchisyokea/>
 また、お電話やメールでもお申し込みを受付させていただけます。
申込み締切 定員になり次第、締め切らせていただきます。
備考 ・本研修は日本認知症ケア学会単位認定講座です。(認知症ケア専門士単位:2単位)
 ・参加された皆さまには、認知症ケアに役立つ書籍をプレゼントいたします。
問い合わせ 日本通所ケア研究会事務局 担当:小川
 〒721-0902 広島県福山市春日町浦上1205株式会社QOLサービス内
 TEL:084-971-6686 FAX:084-948-0641
 メール:info@tsuusho.com



研修会

神奈川地域リハフォーラム

～すすんでますか?…あなたの地域連携～

主催 神奈川県リハビリテーション支援センター
日時 平成25年2月9日 13:00~16:30
場所 神奈川労働プラザ 3階ホール
参加費 無料
対象 特に職種制限はありません。どなたでも参加可能です。
内容 地域包括ケアに必要な医療・介護・福祉・リハの連携がテーマです。フォーラムを通じて、県内外の先進的な取り組みを共有したいと思います。
 関心あるすべての方が対象です。気軽にご参加ください。
申込期間 平成25年1月末まで
申し込み方法 当支援センターホームページよりお申し込みください。
HPアドレス
<http://www.chiiki-shien-hp.kanagawa-rehab.or.jp/>

お問い合わせ
神奈川リハビリテーション支援センター
 (担当) 土屋、長塚
 〒243-0121 神奈川県厚木市七沢516
 TEL046-249-2602 FAX046-249-2601



研修会

2012年度神奈川県活動分析研究大会 2nd

主催 神奈川県活動分析研究会
日時 2013年3月2日(土)13時~3日(日)16時頃終了予定
場所 2日(土)横浜市立大学附属病院
 (シーサイドライン「市大医学部」駅下車 徒歩1分)
 3日(日)長瀬ケアセンター
 (最寄り駅:JR横須賀線 久里浜駅)
内容 講義・実技・デモンストレーション
 講師: 柏木正好 作業療法士(柏塾代表)
対象 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士
 ※2012年度神奈川県活動分析研究大会1st参加者は優先します。
参加費 8000円前後を予定
定員 60名程度
 ※定員に達し次第締め切ります。
申込み方法 神奈川県活動分析研究会ホームページにてお申し込みください。
<http://sites.google.com/site/kanagawakatsubun/>
申込み締切 申し込み開始 2012年12月頃より開始予定
生涯教育ポイント 2ポイント
備考 その他、詳細はホームページにて後日掲載致します。

問い合わせ
茅ヶ崎新北陵病院 リハビリテーション科
神奈川活動分析研究会2nd事務局 橋本 賢次郎
 TEL(代表):0467-53-4111(17:15以降)
 E-mail:k_katsubun@yahoo.co.jp

連載

青年海外協力隊体験記

～大草原の小さな私～

第12回 モンゴル国立外傷センター活動報告2

青年海外協力隊 平成23年度2次隊 川島由貴子



●執筆者プロフィール

川島 (旧姓 堤) 由貴子

大学卒業後一旦就職するも、退職。その後、作業療法士資格を取得し、都内の病院へ3年間勤務する。平成23年3月退職し、7月から約2カ月の訓練を経て、9月より協力隊員としてモンゴルに赴任。国立外傷センターにて活動中。

前号では、配属先における活動を紹介した。今回は作業療法に限定せず、いくつかの活動を紹介したい。

◆脊髄損傷者支援

モンゴルではリハビリ期間が8日程であり、やっと離床して少しトレーニングができる程度で病院から退院することも多い。そして、その後はケアされないという場合が殆どだ。医師からは、その後どういう経過をたどるかということも説明されないことが多い。

私の配属先には、脊髄損傷受傷後20年の両下肢完全麻痺の看護師がいる。彼は退院後の患者に対して、自分が20年で得た知識や訓練方法を伝える活動を行っている。たとえば、訓練器具にもなり生活の補助器具にもなる、色々な機能を兼ね備えた自作の訓練器具を患者の自宅に設置して、長期的な訓練を可能にするというユニークな活動を展開している。私は、彼がこの活動をする際に同行し、上肢機能やADL、簡単なセルフケアについての助言等を行っている。今後、この活動はさらに展開したいと思う。

配属先のすぐそばには、モンゴルで唯一の障害者の自立生活センターがあり、脊髄損傷者を中心とした方々が、日々障害者の権利や生活向上に関する活動を行っている。私はそのセンターにも時々顔を出し、日本のリハビリや自立支援に関する情報を伝えている。

◆モンゴルでの日本文化の紹介

折り紙：どこに行っても、老若男女に受けがいい折り紙。紙を持ち歩くことも簡単であり、言葉の壁も超えやすい。作ったものも飾ってもらえて喜んでくれる。そして、日本人ってすごい、と唸らせることも出来る。折り紙って素晴らしい！



河川敷即席の折り紙教室。風船を制作！

剣道：モンゴルの剣道大会を盛り上げようと、約20年ぶりに行った剣道。JICAボランティア女性5人で団体戦に出場した。日本チームは全員女性、一方、モンゴルから出場の相手チームはほとんど男性だったが、銀メダルを獲得！なでしこの底力を見せました！



剣道大会、銀メダル！

浴衣で三線（さんしん）：日本・モンゴル外交樹立40周年事業の一環、「日本人が歌うモンゴルの歌コンテスト」

に参戦。浴衣と沖縄の楽器三線で、モンゴルの歌を演奏した。コンテストの結果は散々でしたが…。



モンゴルの歌コンテスト出場！

私は日本人とモンゴルの交流を深める活動も重要だと考え、日本語を勉強する学生の実習を担当するなど、さまざまな活動を行っている。

青年海外協力隊

JICAボランティア事業は日本政府のODA予算により、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する事業です。開発途上国からの要請に基づき、それに見合った技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む方を募集し、選考、訓練を経て派遣します。その主な目的は、(1)開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与、(2)友好親善・相互理解の深化、(3)ボランティア経験の社会還元です。(以上、JICAホームページより抜粋)

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース < 159号 > 2013年1月発行（年6回発行）

発行責任者 渡邊慎一

編集責任者 小峰一宏

編集担当 松本政悦・菊地美帆・千葉友浩・矢野竜也・川島由貴子・本間嗣崇

印刷 発送 第一資料印刷株式会社

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301号 TEL/FAX：045-663-5997
月火水木金 10：00～16：00 メールアドレス：jimukana-ot.jp一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト <http://kana-ot.jp>

作業療法 神奈川

編集